

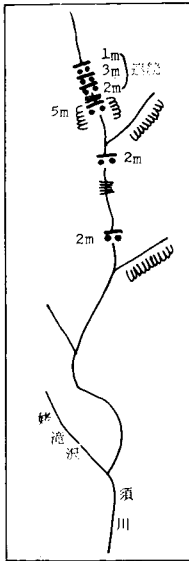
不動沢との合流点に着く。右の不動沢の水は真っ白に濁っていて沢床は見えない。反対に左の須川本流は澄んでいて、川床が一面に赤いのがよく観察できる。先に進む。

左右から合流する小沢にかかる滝が美しい。五ノメクラスの滝が相次いで出てくる。四ノメの滝の左岸を捲き、不安定なガレ場を下って沢床にたつたら、そこはナメの連続する暗いゴルジュ。喜んだらすぐ五ノメの滝、右岸の急傾斜の斜面を樹木だけを頼りに高捲く。時間的に遅くなってきたこともあって更に更にピッチをあげる。七ノメの滝を高捲きした後左岸から四ノメの滝をかけて小沢が合流している。

登山道はそこからすぐの所であった。沢からあがり高湯へ向けて大急ぎで歩を進める。(記・一)

(タイム)

信夫温泉二三・一〇―不動沢出合一五・一〇―登山道



中の沢
(作図: 藤村 均)

一八・二〇―高湯一八・五五

中の沢

一九八〇年九月二十一日
T. I. I. I.

◆天気(曇)

微温湯温泉の手前に車を止めて姥滝沢へ歩く。だいたいヤブがかぶさってきているが道はわかる。姥滝沢に入り、ワラジをつけ中の沢出合まで下降する。一〇分程で着く。

次に中の沢の遡行に移るが、広くもない河原が続くだけで何の変化もない。ようやく二ノメ程の小滝にめぐりあう。次にナメ、そして又二ノメ程の小滝となる。それを過ぎると二俣。

水量は天狗の庭に出る右沢の方が多いが、地形からいって左沢の方がおもしろいのでそっちに入る。まもなく両岸が切り立った岩場になり急な登りとなる。両岸がだんだんせまってきた最奥部に五ノメ程の滝がかかっている。シャワーで登りきると二ノメ、三ノメ、一ノメと三つ小滝が続いている。この先は広い河原となって前方にスカイラインが見えてくる。沢も終わりである。左の尾根

に登り姥滝沢を横切つて微温湯への登山道に出る。

(記・一)

[タイム]

微温湯八・三〇—姥滝沢九・〇〇—中の沢出合九・一

〇—終了一・一〇〇

姥 滝 沢

一九七五年五月二十九日

◆天気(晴)

福島を六時三〇分のバスでたつ。高湯七時一〇分到着。

高湯から自動車道路をゴルフ場まで歩き、ここから微温湯のコースに入る。

道路のわきに指導標があるのでここから入り建物の右を通り又ゴルフ場に出る。ここで次の指導標をさがせば登山道に入ることが出来る。急坂を二〇分ほど下ると不動沢に出合う。

この水は酸味が強くて飲めない。小さな登り、下りを歩くと三〇分ほどで須川に下る急坂となる。

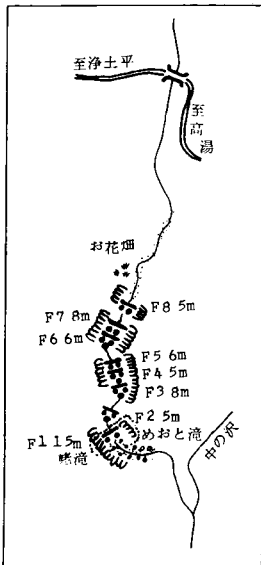
須川八時一〇分。ワラジをつけ、沢登りの準備をする。

登りはじめると小さな滝があつて楽しい。七段の滝の右岸を捲き調子良く進む。

途中左の方から小さな沢が入っている。中の沢出合の少し前にきれいなナメと滝がある。走りだしたくなるようだ。

一〇時二〇分姥滝沢と中の沢の出合。水量は姥滝沢が二、中の沢が三で中の沢の方が多い。左の姥滝沢に入る。途中姥滝一五段二段があり、右岸ガレ場を捲く(左岸に整備された捲き道のあることが後でわかった)。捲きが終わるとおと滝に出会う。滝が二条になっているところからその名がついたのだろう。

これから先いくつも滝があり雪渓が出てくる。その先の滝をシャワークライムで突破すると又雪渓となる。小



姥滝沢 (作図:)